

■施策進行管理結果表

資料	計画名	プロジェクト名 施策名等	①施策の進捗度（いずれかに○）				③次年度の計画改定に向けて、当該施策をさらに充実させるための提案（自由記述）
			A：順調	B：概ね順調	C：やや遅れ	D：遅れ	
総-1	総合計画 重点プロジェクト	Project1 未来を拓く 地域活性化プロジェクト			5		<ul style="list-style-type: none"> ●日本全体の人口減少に伴う工業製品・農業製品の需要の縮小、およびそれに伴う生産量の減少は念頭に置くべきである。 ●稲敷市は市街化区域が少ない。IC周辺の市街化区域の拡大を進める必要がある。
総-2	総合計画 重点プロジェクト	Project2 たくましく生きる いなしきっ子プロジェクト		1	4		<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響を除けば順調であると思われる。 ●浮島のキャンプ場を活用し、宿泊学習会を考へてはどうか。
総-3	総合計画 重点プロジェクト	Project3 笑顔につながる 子育て応援プロジェクト		5			<ul style="list-style-type: none"> ●2人目、3人目を生み育てていきやすい支援体制を考えると、子育て支援センターの利用者数と、子育て情報誌の登録者数、三世交代の参加者数がいずれも「やや遅れ」なのが気になった。 ●厚生事業の進捗は概ね順調ではあるが、全体事業のスクラップアンドビルドを念頭に、学校給食の無償化など他市町村の事例を参考に取組を進めてはどうか。 ●概ね順調ではあるが、個別事業においては必要性を検討するべきものもある。
総-4	総合計画 重点プロジェクト	Project4 誰もが住みたい 素敵なまちプロジェクト		1	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ●地域公共交通対策の利用者増の取組や、和田公園の魅力アップ策などが見えてこない。 ●都市インフラは、設備の老朽化と人口減少に伴う都市の縮小を見据え、「コンパクトタウン」を構想しつつ、中長期的な整備計画が必要である。公共交通は人口減少も考慮すべきであり、DXと連動し、外出しなくても生活できるITインフラ整備や、自動運転も視野に入れた検討が必要である。
総-5	総合計画 重点プロジェクト	Project5 住み慣れた場所で暮らしを支える 安心・安全プロジェクト		4	1		<ul style="list-style-type: none"> ●「シルバーリハビリ体操教室参加者の延べ人数」「スポーツ大会等イベントへの参加者数」「老人クラブ会員数」「ボランティア参加イベント数」が「やや遅れ」なのが気になった。これらは10年後の寝たきり老人数に直結する指標であり、何らかの取組が必要だろう。健康マージャンやスポーツ吹き矢など、他自治体で成功しているレクリエーションを検討してはどうか。 ●市自らが行う再生可能エネルギー事業を一層推進してほしい。
総-6	総合計画 重点プロジェクト	Project6 みんなが力を合わせてつくる 地域づくりプロジェクト			4	1	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティに所属することの直接的なメリットを実感してもらわないと、掛け声倒れになってしまう。「行政に金がないから地域にやらせる」という姿勢では市民の協力は得られない。公民館や図書館など「たまり場」に市民が集いやすくする仕組みづくりを仕掛けていただきたい。 ●特に移住による人口増対策の効果が出ていない。市の魅力を底上げする事業が足りていないのでは。
総-7	総合計画 重点プロジェクト	Project7 広域の絆を生かした 行政発展プロジェクト			5		<ul style="list-style-type: none"> ●小学校跡地などの利活用はこの市町村においても課題となっている。市民の愛着などもあるため処分が難しいのは理解できるが、将来世代の負担にならないよう、せめて更地化するべきである。 ●歳入増対策としてはネーミングライツを、歳入減対策としては一層の民間委託を進めてはどうか。
戦-1	総合戦略	基本目標-1 稲敷市における多様な雇用を創出します（雇用）		3	2		<ul style="list-style-type: none"> ●「基幹産業である農業」とあるが、本市のみならず本県の基幹産業であり、県内他市町村に対して優位性があるようには思えない。現状維持であるならばともかく、新規就農者の増加を狙うのは困難であると推測される。順調な成績を維持している企業誘致と併せて推進するべきである。
戦-2	総合戦略	基本目標-2 稲敷市へのひとの流れとともに、持続可能な地域づくりを推進します（移住定住）			3	2	<ul style="list-style-type: none"> ●企業誘致などにより働く場が確保できているにもかかわらず、若い世代の移住定住に結びついていないのは課題である。 ●事業効果が出ていない。即効性を期待するのは難しいが、市の魅力度を上げるための地道な努力が重要である。
戦-3	総合戦略	基本目標-3 稲敷市らしさのある結婚・出産・子育ての支援を行います（子育て）		1	4		<ul style="list-style-type: none"> ●「市民アンケートの結果を見ると、市内で子育てをしている世代の子育て施策への満足度は比較的高い」のは好材料である。これをもっと移住定住予備軍に発信する必要がある。具体的には、子育て中の市民や移住者にインタビューを実施し、移住定住ポータルサイトで連載するなどを検討すべきである。 ●全体事業のスクラップアンドビルドを念頭に、学校給食の無償化など他市町村の事例を参考に取組を進めてはどうか。
戦-4	総合戦略	基本目標-4 心豊かな稲敷市での暮らしが実感できるプロモーションを展開します（シティプロモーション）			5		<ul style="list-style-type: none"> ●当面は需要と供給のバランスをとりつつ、ルートや本数などの最適化を図っていただきたい。 ●公共交通の充実のほか、自動運転の普及や、宅配サービスの拡充など、民間のICT技術の進展を取り入れた「公共交通機関に頼らない市民生活の確立」に考え方をシフトしてはどうか。 ●独居老人など交通弱者が利用しやすいよう介助ボランティアを同乗させるなどのきめ細かい取組を検討すべきである。
行-1	行革大綱	基本方針1 行政サービスの質的向上 《サービス》		1	4		<ul style="list-style-type: none"> ●DXは順調な印象を受ける。一方、「地域との協働の推進」を「行政サービスの質的向上」と関連づけて評価する視点には違和感がある。「行政にはお金がないから地域にやってもらいたい」という行政本位の考え方が市民に見透かされると、コミュニティの醸成にとって逆効果である。 ●市長の手紙以外にも、例えば市民世論調査など、広く市民の意見を聴く事業が必要と考える。
行-2	行革大綱	基本方針2 効率的な行政運営 《組織・職員》			5		<ul style="list-style-type: none"> ●「職員提案数」「職員提案に基づく事業化数」がいずれもゼロというのは、若手職員の意欲を掻き立てないのではと危惧する。
行-3	行革大綱	基本方針3 持続可能な財政基盤 《財政・事業》		5			<ul style="list-style-type: none"> ●「長寿命化計画の中期目標」が「やや遅れ」ているのは、いずれ一気には老朽化に直面するため、後になって大きな負担になることが懸念される。人口減少と都市の縮小を所与として、中長期的にコンパクトシティ化を目指す方針を立て、それに基づいた財政運営が必要と思われる。 ●歳入増を図るため、遊休公共用地をマイナスとさせずプラスに転じられるよう、市自らが再生可能エネルギー事業に取り組むなどの検討が必要である。